

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400403		
法人名	社会福祉法人 清和福祉会		
事業所名	社会福祉法人清和福祉会グループホームゆたか荘ベルホーム		
所在地	長崎県諫早市長田町2781番地1		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「笑顔とありがとうのあふれる事業所」、「施設のすみずみまできれいな事業所」を目指し、平成28年1月から3年間、外部から講師を招き2か月に1回全職員を対象とした研修を行い、法人全体で取り組んでいます。居心地の良いきれいな環境で、相手を思いやる心を大切に、日々過ごしています。

・ご家族との関係も大切にするため、写真を添付するなどした毎月のお便りを作成して、ご利用者の暮らしぶりや毎月の活動状況をお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは四季折々の移ろいを感じることができる自然豊かな場所に立地している。職員は法人の基本理念である「安全」「健康」「尊厳」「処遇」「リハビリ」をもとに、入居者に穏やかな気持ちで過ごしてもらうことや入居者の希望する生活の実現に向け、日々の支援に取り組んでいる。法人内には特別養護老人ホームや在宅支援事業所など様々な事業所があり、入居者のニーズに幅広く対応することが可能である。職員は毎月目標を設定し環境整備に取り組むほか、家族とのコミュニケーションを大切にしており、コロナ禍で面会の制限がある中、入居者の日々の生活の状況について、写真だけでなく普段の様子を撮影した動画を家族に見てもらって工夫を行っている。地域との関係についても地元小中学校等からの訪問やボランティア等の受け入れのほか、地元大学で先述の実践内容を発表する取り組みやブログの開設など、外部に向けた情報発信も行っている。また、高校の介護実習生の受け入れの際には学生への指導を通じて、職員のスキルアップへと繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆたか荘ベルホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「安全」「健康」「尊厳」「処遇」「リハビリ」のもと、生活支援を行っている。また、法人の目標を週1回輪読して、繰り返すことで周知できるようにしている。	ホームでは法人の理念や経営方針等を記載した冊子を全職員に配布し、毎週職員が少しずつ読むことで情報や支援方針の共有と周知を図っている。職員は入居者に対して感謝の気持ちを持ちながら笑顔で接するよう心掛けており、法人理念にもある安全や健康に特に配慮した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスで中止しているが、今までは年に数回、近隣のこども園・小・中学校や高校からの施設訪問や職場体験などがあり、一般ボランティアの訪問もある。	コロナ禍以前は近隣の祭りに参加したり、地元小中学校等からの訪問やボランティア等の受け入れを行ったりするなど、地域と交流することができており、コロナ終息後には交流を再開する予定である。また、高校の介護実習生の受け入れや地元大学で当ホームでの取り組みを発表するなど情報発信も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルスで行っていない。 前管理者が認知症キャラバンメイトとして市役所職員と連携しながら、老人会やいきいきサロン、民生員の方々へ話している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・包括職員・民生委員・老人会・自治会代表などに参加して頂き、活動内容や実施内容について御意見を頂きながら、サービス向上に努めている。今年度は会議は開催せず、資料を送付しご意見を頂いている。	運営推進会議で使用する資料は職員が作成しており、管理者及び計画作成担当者から運営推進委員へホームでの活動内容等を報告している。また、会議で得た各委員からの意見は運営に反映するよう努めている。今年度はコロナ禍の状況にあるため書面での会議開催としており、各委員へ資料を配布し運営に関する意見を得ている。	運営推進会議で話し合った内容について、職員及び家族へ十分に周知できていないなどの課題が窺える。例えば会議録に押印欄を設け、職員が閲覧した後にサインしたり、入居者状況を伝える便りと一緒に家族へ送付するなど、会議内容の周知に向けた今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議資料と推進会議の皆様からのご意見を、市担当者へ送っている。 その他、役所へ出向き報告や相談などを話し合う機会をもっている。	市担当者とは運営推進会議を通してホーム運営に関する相談及び報告を行うとともに、地域や介護保険等について日常的に情報交換を行っている。また、市が主催する地域や介護事業所に必要な研修会等の話し合いに随時参加しており、行政との密な連携体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常での入居者の様子を観察し、行動を制限しないよう職員間での連携に努めている。職員はもとより、夜勤専門のパート職員一人一人に身体拘束及び虐待の防止について研修を実施した。	ホーム玄関は日中常時解錠し、夜間のみ防犯目的で施錠している。現在、身体拘束を行っている入居者はいない。ホームでは毎月1回職員会議で身体拘束に関する事例検討会を行い、外部研修に参加した職員が研修内容を発表することで、職員間での情報共有やホーム全体でのスキルアップへと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を受けている。入浴などを通じ身体状況を観察し、虐待を見逃さないよう努めている。内出血等を発見した時は、24時間シートに記入し、周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人の手続きの経験があり、法テラスの弁護士の方にも相談の事例がある。必要のある方へは情報提供できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、パンフレット・重要事項説明書などを用いて説明し、理解して頂けるよう努めている。また、契約時に不明な点についてはいつでも遠慮なくご相談ください、と伝えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は新型コロナ感染防止のため、出来るだけ接触を回避しているためできていないが、年に最低1回、御家族様へ来荘して頂き、現場の職員を交えてカンファレンスを行っており、その際意見要望をお伺いするようにしている。またご家族の代表に運営推進会議へ出席して頂いている。	ホームでは家族が訪問した際に意見や要望の集約に努めているが、要望の申し出は少ない。面会についてはコロナ禍により制限していたが、感染状況等を考慮しつつ、ガラス越しの面会など徐々に制限を緩和している。また、入居者の普段の様子を撮影した動画を家族に見てもらおう工夫も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に一度の輪読の後に職員から意見や気づきを挙げてもらう日を設けている他、日頃から職員とのコミュニケーションを心がけている。出来ることはすぐに、出来ないときはその理由を伝え、協議が必要な場合は職員会議などで話し合っている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努めており、定期的に個別面談も行っている。また、職員からホームで必要な物品等の要望を聞き、必要性に応じて洗濯乾燥機を購入するなど、職員意見を取り入れ運営している。更に職員の資格取得についても支援しており、取得後は祝い金や昇給などを行っている。職員間のチームワークも良く、職員同士でも注意し合える関係性を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理なく働ける体制つくりのために夜間帯は専門の職員を設けている。給与については、キャリアパスを採用し職員の意欲向上に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員会議の時に、内部研修という形で職員から発表してもらっている。研修を聞いた職員からは、感想等のコメントを書類で返してもらう。 ZOOMIによる外部研修には参加していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は諫早市グループホーム連絡協議会へ参加し、研修や情報交換の場としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接によりアセスメントした内容を職員間で共有し、本人が早く馴染んで頂けるような働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の性質を理解してもらうとともに、家族の現状の介護負担や精神的負担を把握する事で問題意識を共有し安心して活用できるようお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族はもとより、ケアマネやケースワーカーから直近の生活状態を把握することにより、必要なサービスの確認を行い、生活維持への支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がやりたい事・できる事を把握し、洗濯物たたみやお盆拭きなどその方に合った役割作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、できていない。通常は面会等での来荘を促すと共に、家族参加の行事などを企画しながら、本人と家族と一緒に過せる時間をつくれるようしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月お便りを送付したり、行事参加への呼びかけ、また面会時には一緒に食事をして頂くなど馴染みの方との関係維持に努めている。今年度はお便りの他、ホームページのブログでご利用者様の状況を見ていただいている。	コロナ禍以前は、入居者の多くが市内に住居していたこともあり昔からの友人の面会が多く、入居者の希望時には家族の協力を得て散髪や墓参りなどの外出支援も行っている。行事開催時には家族や近隣住民へ行事への参加を呼び掛け、交流が多く図れるよう工夫するほか、家族が来訪した際には一緒に食事するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操、季節行事など、利用者同士で活動する機会を設けている。また、利用者同士の交友関係に配慮しながら座席などを決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係者から状況を聞いたり、希望に応じて再入所につなげるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との対話や言葉・しぐさから思いを汲み取る努力をしている。意思の確認が困難な方でも家族から関心ごとを聞くなど心掛けている。	ホームでは入居時に入居者本人・家族へ生活歴や嗜好などの聞き取りを行うほか、入居後も普段のコミュニケーションの中で思いや意向を聞くよう心掛けている。聞き取った思いや意向は職員間で共有し、入居者から読書をしたいとの希望があった際には職員から管理者へ伝え、移動図書館を依頼するなど本人の希望の実現に向け支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時や日常の中でアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境などご利用者様・ご家族様からの聞き取りなどで情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況を把握しその方に合った関わり方を心掛けている。また心身の状況や変化等は記録し、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年に最低1回、ご家族様参加のカンファレンスを行い、その場で、本人や家族、職員から意見を収集し、利用者の状態に即した介護計画になるよう努めている。	ケアプランは概ね6ヶ月毎に見直しを行っている。計画作成担当者がモニタリング後に作成したプランの原案をもとに職員間で再度内容を検討し、より入居者に合ったプラン内容となるよう努めている。職員はケアプランに基づいたケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや職員会議、個別記録や申し送りノートにて、利用者の心身の状況や変化を職員間で共有しながら日々の処遇を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	枠にとらわれることなく、要望があった時には柔軟に対応するよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人関連施設や近隣の学校との交流、移動図書館の活用、ボランティアの来荘など、楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合いながらかかりつけ医を決めている。受診は職員が対応し必要に応じて家族にも同伴して頂いている。また、体調不良時には協力医や主治医に連絡を取り相談、指示を仰ぐようにしている。	ホームでは入居前からのかかりつけ医を継続して受診することができ、受診時は入居者の状態が把握できるよう職員が同行支援しており、入居者本人及び家族の安心へと繋がっている。尚、家族の希望がある場合もしくは必要の際には家族に依頼し受診に同行してもらっている。また、ホーム協力医による訪問診療も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携をとりながら、健康管理などで相談、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の定期受診などで日頃から訪問、又は電話にて情報交換を行っており、いつでも相談ができる医療機関を確保している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない。主治医との連携を密にしている。事業所での対応能力についてもご家族様・主治医に説明し理解を得るよう努めている。	ホームでの看取りは行っておらず、医療的な処置が必要となった場合は、医療機関への入院または同法人の特別養護老人ホームへの紹介を行うことなど入居時に家族へ説明し、同意を得ている。重度化した場合の入院等の時期の判断については、主治医と密に連携を取りながら家族への説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを配布し、職員が対応できるように備えている。また定期的に普通救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	緊急連絡網を整備し近隣の長田中学校へも連絡がいくようにして協力体制を作ると共に、緊急時の訓練を行っている。 (前年度まで県央消防本部主催の初期消火練法競技大会に参加している。)	ホームでは定期的に火災避難訓練を実施しており、今年7月の豪雨の際にはホーム西側の土砂崩れを警戒し入居者を安全な部屋に避難させたほか、その際の反省点を今後活かせるようマニュアルを見直すなど防災への意識を高く持っている。また、停電に備えて発電機も設置している。11月には同法人内で総合訓練を実施する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者の人柄をよく理解し、その方にあった声の掛け方・関わり方を実践している。介護者の都合や馴れ合いの関係で個人の尊厳を忘れないよう、職員間で接遇のあり方を見直すよう努めている。	毎月の職員会議の際、職員は入居者の尊厳や接遇の在り方について話し合う機会を持ち、日々の支援に活かしている。オムツ交換や排泄介助を行う際には必ずドアを閉めるよう心掛け、入居者のプライバシーに配慮した支援に努めるとともに、入居者への声掛けについても職員同士で注意し合いながら馴れ合いにならないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助する前には声掛けにて本人の意思を尊重するようにし、確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好んで着ていた馴染みの衣類などを家族に準備してもらっている。入浴時の衣類の準備も出来る方には本人立ち合いで準備してもらっている。1～2か月に1度、訪問美容師にきて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸や湯のみ・お椀など一人ひとりが使い慣れた物を使用し、顔を合わせ楽しく食事ができるよう配慮している。また片付けの出来る方にはお盆拭きなどを手伝ってもらっている。	食事は普通食からミキサー食まで入居者個々に応じた食事形態に対応しており、入居者の誕生日には食べたい物を聞いて提供している。箸や湯呑みなどは入居者の使い慣れた物を使用してもらうことで、入居者が楽しく食事できるよう工夫している。お盆拭きなどできる方には職員から声を掛け、一緒に行うことで残存能力の保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に嗜好調査を行っている。栄養士によるバランスのとれた食事を提供し、個々に合わせた食事形態で対応している。夏は水分を取っていただく回数を増やしたり、工夫してゼリーなども取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、声かけまたは介助にて毎食後の口腔ケアを行っている。うがいが困難な方に関しては、口腔ケア専用の拭き取りで清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、残存機能を活かしながら排泄支援を行っている。日中はトイレへ誘導し排泄を促している。夜間オムツ対応が必要な方も日中はトイレへの誘導を行っている。	職員は24時間シートを活用しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、定時での誘導を行ったり自分でトイレに行く方は見守ったりするなどし、トイレで排泄できるよう支援している。終日オムツ使用の方もいるが、夜間のみオムツ使用の方については日中はトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックや水分補給の実施。自然排便が少ない方に対しては主治医と相談し便性状等を報告し、個々の状態に合わせた下剤の調整をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の実施である。その日に入りたいと言われた方、また体調不良の場合については、翌日実施など日にちをずらして対応している。	ホームでは週2回午前中の中の入浴を基本としており、入浴拒否がある方については声掛けする職員や入浴時間の変更、もしくは入浴日変更などで対応している。しょうぶ湯やゆず湯など季節に合わせた工夫や入居者からの希望に応じて同性介助にも対応できるよう支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や日中に活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方されたお薬の調剤表はファイルに綴じている。変更があった際は事業日誌に記載し、全職員に周知を図っている。薬の変更時は状態の観察を行い、変化があった際は、かかりつけ医に報告している。また服薬マニュアルを作り、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個人に合わせた役割作りや、利用者・職員が共同でできる壁画づくりや季節行事などの実施にて生活の中で楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内への散歩や、併設施設への訪問は個別に対応し気分転換を図っている。お花見やドライブ支援など、利用者の体調を考慮しながら行事計画に取り組んでいる。	職員は気候が良い時には敷地内を散歩することで入居者の気分転換を図っている。コロナ禍以前は初詣やドライブに外出する際に家族にも参加を呼び掛け、一緒に外出することができていた。また、入居者・家族の希望に応じて本人・家族との外出支援の計画も支援していた。コロナ終息後にはこれらの活動を再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい為、家族管理とさせてもらっている。本人より物の購入の希望があった場合は、ご家族に本人の希望を伝え了解を得た上で、ご家族が購入し持参していただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には対応している。また、家族へは毎月お便りを発行し、本人さんの生活の様子を写真などで見ていただいている。ホームページにも静止画や動画をブログにアップしている。手紙も希望される方には書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂には花を飾り季節感を出し、リビングにはソファ・テレビなどを置き、音楽を流すなど団欒できる環境作りをしている。	ホーム共用空間は職員が毎日午前中にモップ掛けを行い環境を整備しており、季節に応じた飾り付けや入居者が好む歌の歌詞を掲示している。リビングのソファなど入居者が寛げるスペースも十分に確保されており、入居者同士のトラブルもない。リビング内のテーブル中央には新型コロナウイルス対策としてアクリル板を設置し、窓も常時開放し換気している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、利用者同士で団欒する場所に確保や、一人で過ごしたい時は食卓テーブルで過ごすなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品(寝具・衣類など)や家族の写真など、必要なものや本人が希望される物は持ち込めるようにしている。	居室はリビング同様職員が毎日午前中にモップ掛けを行い環境を整備している。室内には入居者が使い慣れた家具類を持ち込んでもらうことで、居心地の良い生活空間が作れるよう配慮している。寝具はベッド使用の方が多いが、布団の使用も可能である。衣替えの時期には家族に依頼し、入居者と一緒に行ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じて居室内のベッドや家具の配置を工夫している。		